

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 4年 2月19日
(105号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学講座
第111講

「降りていく生き方」

木南一志 先生



■ 取り組む姿勢

今回の演題を「降りていく生き方」としました。鍵山相談役は、そこまでへりくだる必要はないと思われるほど下へ下へと降りてゆかれます。掃除をする謙虚になると言われるが、私の知る何人かは傲慢になっている。そういう人を見るにつけ、自分を振り返っても、一生懸命やればやるほどこれだけやっているのに、という思いのわき上がる自分自身がいます。振り返るに「掃除をやっているから」謙虚になるのではなく、掃除に取り組む姿勢が自分自身の中でどちらの方向を向いているかということが重要なのではない。物事が起きた時に、これは時代のせい、政治のせい、他人のせいと考えるのか、それとも、ここで起きたことは私に何か教えるためだと受け止めるか、その方向性の違いは続けていけばいくほど、差が出てくるようになるのではないだろうか。

実は徹底した掃除をやればやるほど美しくなければならぬということに拘るあまり、ゴミを捨てる人を責め立てたり非難したりとなってしまう。一見立派なようですが、「清濁合わせ飲む」、現実から逃げず向き合うことの方が大事なのではないかと思います。

今回のコロナ禍も、百年前のスペイン風邪のときとマスク、手洗い等基本は何も変わらない。日本が世界の国と比べなぜこれほど違うか？基本を今も変わらず守り続けていること、周りの状態や全体の様子・変化に日本人は気づくからだと思います。生活のなかで当たり前にあるこの心遣い、

思いやりを日本人は教えられてきたからこそでしょう。

■ 大きな努力で小さな成果を

武士道は「勝てばよい」という考えではなかった。それに注ぐ努力を、幸せを感じながら取り組むならば、幸せの中で成された結果はさらに大きな幸せへと繋がっていくのだと思います。「大きな努力で小さな成果を」の言葉の意味を考えるに、一生懸命掃除をしてその場がきれいになれば確かに満足感があります。しかし、それで世の中は良くなっていくか？努力が幸福への手段であれば、それを手にするまで途中は不幸だといえます。大きな努力は不幸の中に積み上げられたとしたら、決して幸せになどなれないでしょう。大切なことは努力そのものに幸せを感じられるかどうか。努力は手段ではなく、それそのものが幸せであること、努力を幸せだと感じて実行に移しているかどうかなのです。そこに邪念が入れば違うものになるだろうし、幸福感の中で実行を継続すれば見えてくる世界もどんどん変わってくるのだと思います。

「○○○○○○○○○○」この努力こそが相談役の言われていることではないか。○はゼロに見えるゼロではない。鍵山相談役が始められたトイレ掃除が日本中の学校に広がり、街頭清掃に広がり、世界に広がって、確実に世の中は良くなってきている。この大きな努力を幸せを感じながら、積み上げていただきたいと思います。

■ 掃除は人を育てる

掃除の会に参加している社員のうち、一人は自閉症、一人は知的障害です。掃除は人を育てます。汚れているところがきれいになればまた次の汚れているところが気になってくる。一つ拾えば、自分は捨てなくなる。それだけのことですが、それだけのことが人間を育ててゆくのです。

「1+1=0」となる。積み上げてきたものをゼロにすること。ゼロにしたら荷物にはならない。「0+

0=1」が「続ける」ということとすると、この「1+1=0」とは「身につく」ということと理解しています。

一つ一つをどう身につけていくか。周りの人がやるから、誰かに言われたから、などではなく、自分と向き合い、自分との約束とする。できない自分を数えるのではなく、少し努力をして自分自身を育てていくこと。そのように身につくようになれば、確実に習慣は変わっていきます。自分がどういう風に何を身につけていくのかが横の糸。そして縦の糸は、親・先祖からいただいた命です。横の糸をこの縦の糸にいかにつかりと結び付けていくか。結び付いたら0になり、隣の縦の糸に結び付いたらまた0になり：そうするなかで人生は作り上げられていくのではないかと思います。

降りていく生き方を教わったのは、弓道の師範からでした。師範がこう言われました。「教える立場に立つと教えるだけではない。できない人の側に立ち、その気持ちになれないと、教えることはできない」と。これは会社経営でも一緒で、右肩上がりを目指すばかりではなく、できない社員に向き合うときに大事なことは、できない人のやり方ができるかどうか。気持ちだけ理解しようとしても意味はなく、その下手なやり方をする中で、その人の不自由さ、辛さを自分に課すこと。そうすれば自ずと自分の傲慢さを教えられることになります。

社員の自閉症のY君は当初挨拶も言葉に詰まりろくに返せなかった。何か月も心を開くことはありませんでした。あるとき掃除の会に誘ったところ、参加してくれるようになりました。そのうちだんだんと心を開き、今ではいろんなことを話せるばかりか、前で発表もしてくれるようになったのです。彼を見て、掃除の力の凄さをまたあらためて感じています。

(抄録 中川千都子)

《感動語録集》

◆ 木南一志先生

「降りていく生き方」

- * 努力が幸福を手に入れる手段ではなく、努力そのものが幸せである。
 - * 掃除は人を育てる。
 - * 大事なことを人に伝えていく人になりたい。
 - * 出来ない人の身になり、出来ない人と同じようにできるのか。
 - * 犠牲に見えることが、幸せに感じられるかが重要。
 - * 努力してもできない人の気持ちに分からないと、人を教えることができない。右肩上がりではなく、下手になるために自分自身が努力しているか。
 - * 「0+0=1」(続ける)
 - * 「1+1=0」(身につける)
 - * 「1=0」(高める)
- この数式をコツコツ続けていけば、本当に解けることが身についてくる。そしてその努力そのものが幸せなこと。
- * 努力を重ねたことで身につく。
 - * これまでを、これから変える。
 - * 苦労からは逃げ切れる、逃げて最後は耐えるだけ。
 - * 大きな努力で、小さな成果。
 - * 努力そのものに幸せを感じる。
 - * 下手になるために、自分は努力しているか。
 - * 自分としっかり向き合い、自分が自分に嘘をつかない。そして少しの努力をして自分を育てる。

- * 降りていく生き方。
- * 掃除は活気が大切！テキパキ動く。
- * 努力してできた自分をほめてあげる。
- * 下手になる練習、不自由になった時理解できる。
- * 鍵山秀三郎先生の講演用ノートより
- * “ここまでやるか”という準備をされて、“下手になる練習”で自分の傲慢さを知る。
- * ほんの少し自分が動いて回りを幸せにする。
- * 身につけば、習慣は変わる。
- * 小さな成果を幸せに変えていく。
- * 活気は、生命の原動力。
- * できた自分を積み上げていくことで、身につく。
- * 始める時は、終わる時を想定して取り組む。



総合司会 北嶋紀子塾生



講師紹介 下 正晴塾生



《わたしのハガキ道》

藤 久晃



「継続あるのみ」

複写ハガキとの出会いは、今から十二年前の天分塾第十三期・夏季一泊研修でした。それまで

の私は、手紙やハガキなどは大の苦手で、年賀状以外書いたことはなかったのですが、その時の一枚にどれだけ苦心したことか。

けれど、ハガキは森教学・実践五箇条「あすこそは」の一つなので、内心ではスラスラと書けるよう、何とかしなければいけないと思っていました。が、実際には少ししか書けませんでした。今思えば、「ハガキ筋力」の圧倒的不足だったのです。

そうして六年が経過したある日、大きな転機が訪れました。道友の中井麻美子さんと渡邊翔一さんから「島田はがきびとの集い」を強く薦めていただき、思い切って参加してみました。そこには全国各地から錚々たる「はがきびと」が集っていて、中には一日に二、三十通を書く名人や達人（千葉の五木田守夫さんや島田の立林浩明さん）もいて、只々驚くばかりでした。

私は島田の集いに刺激を受け、まずは一日一信以上（相手は様々）を始めました。すると三ヶ月後に、何と！名人の五木田さんから「宜しければ一ヶ月間、一日一信をしませんか」とお声を掛けてもらいました。相撲で言えば、大横綱が稽古をつけてくれるというのです。私はかなりビビりましたが、こんな有り難いチャンスは二度とないと肚を決め、三十日間を何とか乗り切ったのです。一日一信以上は一年十ヶ月ほど継続できたものの、忙しさにかまけて、今では超が付くマイペースになっています。

まだまだ安定して書くことのできない私ですが、相手の方に真摯に向き合い心を込めて書くよう心掛けています。今後の課題は億劫さの根切りと、いかに楽しみながら取り組めるかです。

藤久晃

＊ハガキ筋力…通算五百枚を超えるとハガキ筋力が付くと言われる。

＊あすこそは…挨拶・スマイル・腰骨・掃除・ハガキの頭文字。

《塾生の本棚から》

小林礼治

『リュックの中身』

三浦千賀子詩集



皆さま、いつもありがとうございます。登録会員の小林礼治です。

今回は、私の友人の三浦千賀子さんの新しい詩集について、とても素晴らしいので、ご案内させていただきます。

三浦さんはもと中学校教師で、その後もNPO法人でひきこもりの子どもの相談員をされたり、東日本大震災のボランティアなどもされていました。そして、日常において詩を書いておられ、今回が何冊目かの詩集になります。なお、挿画はご主人が書かれております（これも素晴らしいです）。

三浦さんは子どものころから、脚の具合が悪かったり、ご家族の問題などを抱えたりしておられ、ご自身が悩みながら生きて来られました。その中で、詩を書かれることによって、「自分を受け止め」、「新しい

自分に出会うこと」ができたと言っておられます。また、「生きるとは、あきらめざるを得ないことも受け入れること。自分のマイナスも長所も認めてそこからスタートすること」だと。

私は三浦さんと知り合って十年以上ですが、本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。なお、なぜ三浦さんと私が友人になったかについては、詩集にも書いていただいています。

最後は、書評風にご紹介いたします。

「教え子のこと、若者のこと、世界で闘う人のこと、街ですれ違った人のこと。ひとはここまで他人を思い、感受性を高め、共感力を持つことができるのか。コロナ禍において、新年にあたって、あなたの心にきつと温かい気持ちを呼び戻してくれる一冊。」

読んでいただき、ありがとうございました。

三浦千賀子（みうら・ちかこ）

1955年生まれ。中学校で31年間教員生活。

現在、NPO法人・おおさか教育相談研究所の相談員。

詩集『憧憬 わたしの子どもたちへ』（アツトワークス）『自分

のことばで』（清風堂書店）『一つの始まり』（竹林館）『今日の奇跡』（竹林館）『友よ、明日のために』（竹林館）他／教育エッセイ『自閉

症の中学生とともに』（未来社）関西詩人協会会員・大阪詩人会議「軸」会員・詩を朗読する詩人の会「風」に参加。



出版社：竹林館
頒価：二一〇〇円（税込）
発売日：2022/1/10
ISBN-10：4860004655

《人間学塾・中之島》次月日程

【3月日程】春季宿泊研修

◆ 日程 3月12日(土曜)～13日(日曜)

受付 12日午後0時～

◆ 会場 高野山宿坊「本寺院」

和歌山県伊都郡高野町高野山六一〇

◆ 12日(午後13時15分～15時30分)

講師 石平氏

「日本人の知らない

中国四千年の歴史」



1963年、中国四川省生まれ。北京大学哲学部を卒業。1988年来日。神戸大学文化科学研究科博士課程修了後、民間研究所勤務。2002年に『なぜ中国人は日本人を憎むのか』(CRP研究所)を著して中国における反日感情の高まりについて先見的な警告を発して以来、評論活動に入る。著書に『論語道場』『謀略家たちの中国』『中国人の正体』『中国版サブプライムローンの恐怖』『なぜ日本は中国から離れるとうまくいくのか』など著書多数。

◆ 13日(午前9時00分～10時50分)

講師 福島香織氏

「孔子を捨てた国―中国」



奈良市出身。(ジャーナリスト・中国ウォッチャー・文筆家)大阪大学文学部卒業、産経新聞入社。上海復旦大学に業務留学後、香港支局長、中国総局(北京)駐在記者、政治部記者などを経て2009年に退社。以降はフリーとして、おもに中国の政治経済社会をテーマに取材。主な著書に『中国絶望工場 of 若者たち』(CRP研究所)など著書多数。

《芳信抄》

埼玉県 山下武彦様

松下幸之助さんは、八十歳を過ぎてから「松下政経塾」を創られ、そのかじ取りに上甲さんに白羽の矢を立てられて「政治には関心がない」とお断りすると、「大切なことは熱意を持つてあたること」と説得されたとのことでした。その後十四年間にわたり、上甲さんはその道の第一人者として国会議員三十名を含め六十名の方々を育て、活躍を見ておられるとのことでした。

川越市 大出雅一様

上甲先生のお言葉で「やればわかる」

が、とりわけ心響きました。私共は、ついやらないうちから頭の中で力の出し惜しみをして「それは無理だ」と簡単に諦めてしまうことがよくあります。あたり前のことを徹底してやることにしても、そんなことは無意味と軽視してしまいがちです。しかしやり通した人のみが感得できるその心理は、本当であることに気付くことが多くなりました。それを上甲先生のお言葉に発見できて、嬉しく思いました。

「幸せとは仕合わせ」と説かれる執行先生のお言葉も心に響きました。人と人が愛し合う喜びが本当の幸せであり、自分だけの幸せは存在しないことが良く分かりました。

宮城県 加藤秀夫様

人間学講座上甲先生、執行先生のお二人の講話抄録大変ありがとうございます。まさに現代文明への鉄槌というべきコロナ禍とどう向き合うべきかの指針を示していただきました。「それもまたよし」「民族の魂を磨く」ありがとうございました。

愛媛県 桂 誠司様

講師お二人のお話を、感動語録集としてまとめてくださり、感謝いたします。まるで一冊の本を読んだかのようなです。

愛知県 坂部智一様

はじめに、清林由佳様、橋本美津枝様へのお礼のお言葉に納得です。

一言で人を導いてくださいます。その空間が人間学塾・中之島、天分塾の伝統文化のように思います。学び続けられている先人の謙虚な言行は、心に響きます。

上甲先生の「上手くいかなくなる原因の殆どは、本気が足りない」何事も「ハイ！喜んで!!」本気で取り組む一年にします。

岡山県 柴田久美子様

「人生二度なし」看取り士として臨終に立ち合いながら、この言葉の意味を噛みしめる日々です。

上甲先生のお言葉に八十歳になる日が来ると思ったら、楽しみと、心がはずみます。

「忍耐」

● 「忍耐」には二つの側面がある。

一つは感情(特に怒り)を露骨に顕さない(堪忍)今一つは苦しみに打ちひしがれないで、いかに永い歳月がかかろうとも、一たん立てた目標は、どうしてもこれを実現せざるば已まぬ(隠忍)

● 「忍」とは、已に打ち克つということです。忍耐の実行上の工夫としては、怒りの言葉が出そうになったら、常に「ここだ！ここだ！」という反省の閃きが現れるようにすることです。

『修身教授録』より